

第 27 回根研究集会に参加して

増 田 さやか

東京大学農学部応用生命科学課程生命工学専修

紅葉と白銀で彩られた11月24日の福島市で、第27回根研究集会が開催されました。外の寒さとはうって変わって暖かな雰囲気あふれる会場には、世界のティーコーナーや色とりどりの花などが華やかさを演出しており、参加者の方はみな、思い思いの飲み物を手に席へつき、なごやかなムードで会は始まりました。

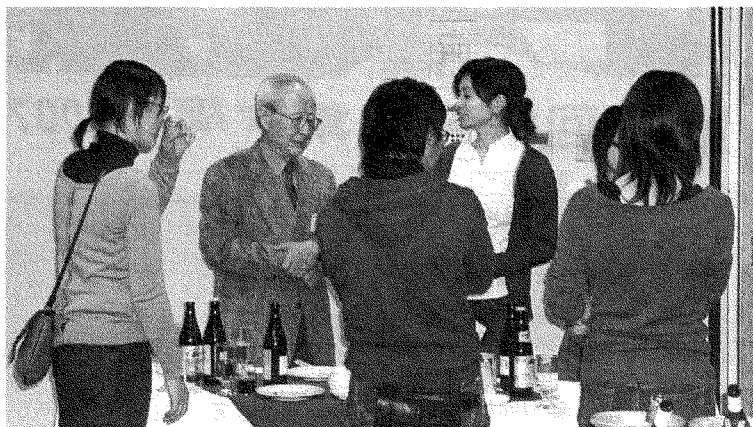
今回口頭発表でトップバッターを務めた「アミノ酸がイネ幼植物に及ぼす影響と吸収特性」についての研究は、実は私も携わせていただいていたものでした。この発表は、根が有機態窒素を吸収する様子を撮影した動画を初めて公の場で発表するというだけでなく、自分が能動的に関わった研究を研究室以外の人に見ていただくという、実は二つの面で記念すべきものだったのです。「根」の専門家の方々が、客観的にどう反応してくれるだろうか・・・と緊張と不安の入り混じった気持ちで席に座っていましたが、発表後に質問や感想をいただけて、心底安心しました。加えて、日常生活では関係者間でのみ議論や評価が行われがちなため、このような場で第三者の方から興味を持っていただけて、報われた気持ちにもなりました。

その後も「根」という研究テーマに対して、生理学的、化学的、時には物理学的視点からアプローチされている発表が続きました。口頭発表が7演題、ポスター発表が22課題+奨励賞1課題、さらに受賞者による記念講演4演題がこ

の研究集会での内容でした。皆さんが大変幅広いアプローチ方法や考え方を持っておられたことに強い刺激を受けましたが、研究の題材を「根」に絞っているからこそ、こうした違いが際立って見えたのだと思います。

今回は、閉会後の懇親会にも参加させていただきました。研究室に配属されてまだ間もない私が皆さんのお話についていけるのか、若干の不安がありましたが、実際参加してみると気取らずフレンドリーな雰囲気に満ちていて、気さくに接していただけました。そのため、あまり物怖じすることなく学術的な内容からそうでないものについてまで、お話しを伺うことができました。一般的に「とっつきにくい」イメージのある研究者ですが、皆さんのもう一方の面を垣間見ることができた点もまた、貴重な体験となりました。

このようにして、あっという間に一日が過ぎていきました。気取らなさや研究に対するひたむきな姿勢が同居するこんな根の研究集会に、次回をもっと主体的に参加できれば良いな・・・と思いながら、私は今、残り少ない2007年の日々を送っています。そして、今回出会えた多くの方々のように、固定観念にとらわれることなく私にしかできない自由な発想で今後の研究生活を送りたいと、来年に想いをはせております。



懇親会の様子（山崎耕宇先生&若手研究者）